すべての生命は音から生まれ、
音に還ってゆく

龍村 仁監督作品

地球交響曲
ガイアシンフォニー

GAIA SYMPHONY №9
—第九番—

出演：小林研一郎　スティーヴン・ミズン　本庶 佑
ナレーション：榎木孝明　鶴田真由　　声の出演：林田尚親（スティーヴン・ミズン）
弓野恵子　床みどり　堀悦子　石垣金星　石垣昭子　梶田真章　コバケンとその仲間たちオーケストラの皆さん　浦河アイヌ協会の皆さん　西表島・祖内村の皆さん　天川村柚人の皆さん
監督：龍村 仁　撮影：米田 元　赤平 勉　夏海光造　制作統括：龍村ゆかり　企画製作・配給：有限会社 龍村仁事務所　2021年／123分／日本／ヴィスタ／ドキュメンタリー作品

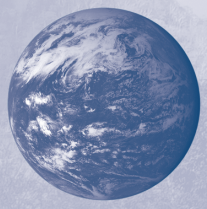
gaiasymphony.com

G 映倫

すべての生命は音から生まれ、音に還ってゆく

地球交響曲（ガイアシンフォニー）
GAIA SYMPHONY №9
—第九番—

なぜ、私たち人間は、これほどまでに音楽を作り、音楽に耳を傾けずにいられないのか。
30年前、この映画に「交響曲」と名をつけたのは、あらゆる楽器がそれぞれ独自の音を奏でながらシンフォニーを奏でるように、生命体である地球のシステムもまた、ともに美しく壮大な調和の音楽を創造する、ひとつの生命のシンフォニーを奏でているようなものだからだ。
今、私たち人間は、明らかに調和を乱す不協和音を奏でている。
調和を求める宇宙の「大いなる意志」によって私たちそのものは抹消されてしまうのか、それとも新たな調和の音楽を創造することができるのか、その選択は私たち自身に委ねられている。
今こそ、私たちは耳には聴こえない“音楽”を聴く“想像力”を取り戻さなくてはならない時だと感じるのだ。



映画監督 龍村仁

小林研一郎／指揮者 KOBAYASHI Ken-ichiro

「21世紀の今、ベートーヴェンの『第九』を振ってコバケンを越える指揮者はいない」という音楽関係者の声をよく聴く。奇しくも私と同じ1940年4月の、同年同月生まれである。私と小林研一郎が出会うということは偶然ではない。はっきり言って言葉では説明のできない同じ事柄がお互いにあり、地球交響曲的な何か、人間にとって大切なこと、今の時代にやらなくてはならないことがあるのだと確信している。コバケンの仕事を映画にするとかそういうことではない、この時代までの私と彼とがつながり合って生まれる「第九」を、私のいのちの最後として送りたいのだ。

本庶 佑／医学博士・分子生物学者・ノーベル生理学医学賞受賞者 HONJO Tasuku

「地球交響曲」の構想に大きな勇気を与えてくれた「多様なものが多様なままに共に生きる、それはいのちの摂理である」と語ってくれたのは、本庶佑である。40年前、当時すでに抗体の遺伝子研究で難病解明に大きく貢献し、世界的な評価を得ていた。

すべての生命はひとつながりのものであり、ともに調和しながら永遠に生きている。宇宙誕生の一瞬に生まれた粒子のひとつさえ、宇宙の無数の星々の誕生と死に関わりながらいま、この私の身体のなかにあるかもしれない。その記憶を呼び覚ますとき、蘇ってくる懐かしさはどこに繋がっているのか。

遺伝子をみつめることで生まれた新たな生命像は人間の心のありようにも変化のもたらすのか。いのちとはなにか。その永遠の問いを科学の目から語ってくれる。

スティーヴン・ミズン／認知考古学者 Steaven MITHEN

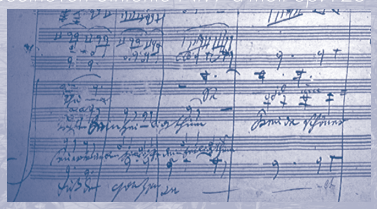
私たち日本人は、「ネアンデルタール人」にどんなイメージを持っているだろうか。

多くの人は、現生人類(ホモサピエンス)が登場する遥か以前にこの地球に生きていた類人猿に近い存在だと思っているかもしれない。ところが、最近のめざましい考古学の新発見によって、ネアンデルタール人は、私たちと同程度の大きな脳と発達した喉を持ち、「言葉」ではないが、「歌声」によって互いに高度なコミュニケーションをしていたのではないかという学説が生まれてきた。つまり、ネアンデルタール人の大きな脳は、言語によるコミュニケーションではなく音楽的コミュニケーションに使われていたというのだ。この学説を提唱したのが認知考古学者スティーヴン・ミズンである。彼は、人類の心の始まりを知る鍵は、ネアンデルタール人の心を知ることだと語る。

映画では、かねてより縄文文化の自然観、生命観に興味を持っていたスティーヴン・ミズンとともに、アイヌや琉球の文化に触れながら、音によって紡がれた世界に触れる旅をすることとなった。
遠い祖先とのつながり、見えない存在とのつながりを思い出す旅は私たちは何を思い出させてくれるのだろうか。

ベートーヴェン交響曲第9番 二短調 作品125「合唱」

Beethoven Sinfonie Nr. 9 d-moll op. 125



楽聖ベートーヴェンは、生涯に9本の「交響曲」を作曲し、「第九」を作り終えたあと、この世を去った。ベートーヴェンはこの「第九」で初めて楽器だけではなく人間の歌声「合唱」を入れた。

当時、すでに聴覚を失っていたベートーヴェンの耳に、人間の歌声はどのように響いていたのだろうか。

地球交響曲第九番では、「コバケンとその仲間たちオーケストラ」と、この映画の収録のために結成された「ガイアシンフォニー第九合唱団」が、年末恒例の「第九演奏会」に向けて、小林研一郎の気迫と情熱で仕上がってゆくリハーサルのプロセスを描いている。その「第九」の演奏は14分で綴っている。

沖縄上映 & 特別対談

名嘉睦稔氏（木版画家）× 龍村ゆかり氏（プロデューサー）

【日　時】2022年11月13日(日) 12時30分開場 ／ 13時～16時 上映、対談
【入場料】前売り 2,500円 ／ 当日 3,000円 （詳しくはHPをご覧下さい）
【会　場】那覇文化芸術劇場 なはーと
【主　催】ガイアシンフォニー沖縄上映委員会
【H　P】gaiasymphony.com
【お問合せ】gaia.okinawa2022@gmail.com

Peatix からのご購入